

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通/2階、3階ユニット)

事業所番号	2770109128		
法人名	株式会社カームネスライフ		
事業所名	グループホームここから百舌鳥西之町		
所在地	堺市北区百舌鳥西之町2丁218-1		
自己評価作成日	令和5年6月27日	評価結果市町村受理日	令和5年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症の感染拡大や防止対策での混乱もようやく落ち着きつつあり、徐々にではあるが日常のホームでの生活提供が戻りつつある。  
ホーム内での行事を充実させ、数少ないタイミングを見計らって職員、入居者様との外出を実施し出来る限りホームでの生活で閉塞感が出ないように努めている。  
今後も新型コロナウイルス感染症の感染防止に取り組み、入居者様や家族様にとって安全で信頼のおけるホームとなるよう努力していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業主体は2003年に設立され、大阪府下を中心に多くのグループホーム・小規模多機能施設などを運営している。法人理念を「・通じあい、信じあえる心を育み、健やかな身体を維持する事を目指します ・広い知識と高い専門技術を提供するため、常に自己研鑽に努めます ・介護事業を通じて地域社会に貢献します ・全職員の物心両面の幸福が当社の幸せと考えます」としている。新型コロナも5類感染症となり、事業所は感染状況を見据えながら最善の留意と感染対策に取り組んでいる。行事・イベントや美味しい食事提供など、施設内で心地良く過ごせる生活の場として環境整備などの配慮が窺える。利用者は勿論、職員が心身ともに健康であつての介護であると感じる。職員間のコミュニケーションや定着率も良好である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果【2ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差し、地域と共に互いに支える生活の提供」という理念の職員への意識づけのため朝礼時に確認をしている	事業所の理念を、玄関口の入ってすぐ見える場所と各フロアのホワイトボード・事務所・休憩室に掲示している。朝礼時に法人理念と共に管理者が読み上げ、職員が唱和している。その後申し送りをを行い、時間を掛けてその都度気付きなどを話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため思ったような交流は途絶えてしまっている	コロナ過で以前のような交流は困難だが、地主などから地域の情報収集を得ている。ボランティア受け入れを今年3・4月から再開し、音楽会・ドッグセラピーを楽しんでいる。以前は保育園児の訪問や中学生の職場体験を受け入れて、認知症の理解促進と高齢者との交流を行っていた。今年には町の秋祭りの見学を予定している。	コロナ過前のように、地域との交流や行事などへの参加ができることは利用者の楽しみであり、心身の活性化に繋がる。現状の感染状況を観ながら、地域との交流の再開を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流もコロナ禍のため限られている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため運営推進会議は文書開催を余儀なくされている。業務報告書という形で包括支援センターや民生委員、知見を有する方に報告し意見を伺う努力をしている	本年5月まで会議は書類開催を行っていたが、府から通常開催の要請があり、7月から奇数月に開催している。会議メンバーは家族・地域包括支援センター職員・民生委員・マッサージ治療員・管理者などである。会議議事録は、家族への毎月の便り(写真付きで事業所の行事の様子)と共に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナのクラスター発生時は市や府の関係機関との連携は密にできた	府の感染対策支援課からでコロナクラスター対策の行政指導を受け、早期に蔓延防止を行った。区の生活援護課や市の介護保険課・国民健康保険課とは、疑問点や書類関係・住所変更などで連携している。北区グループホーム連絡会は月1回ズーム会議を行い、本年8月には対面で情報交換と懇親会を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会及び研修を全職員に実施し周知徹底をしている	「身体拘束適正化に関する指針」を作成し、適正化委員会を3か月毎に行い、議事録を職員に回覧し周知している。委員会と同日に年4回研修を行い、身体拘束と虐待防止を交互に研修して、職員の知識・意識の周知徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会及び研修を実施し虐待の定義や発生防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	入居者様全員に主担当の職員を配置し、日常生活での自立支援に万全を尽くせるよう各担当ケアマネジャーと連携を取り支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は家族様や関係各位に丁寧に事前説明をし、納得された上でご入居いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者だけでなく、各入居者様の担当職員と家族様との話し合いの場を設けてホーム全体で家族様や関係各位からの意見・要望を反映させている	電話や面会時に家族と話し合っているが、家族からの要望は特に無い。「病院受診や専門施設へ移行などの対応が良い」との意見がある。転倒防止のための離床センサーの設置を家族に説明して承諾書を交わし、家族の安心を得ている。利用者の担当職員が家族との窓口となり、話し易く信頼できる関係がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員との定期的面談を実施し、職員からの提案や意見陳述は随時管理者が対応している	管理者は人事考課の職員面談を年2回行っている。毎日の朝礼時に時間を掛けて意見を聴き、毎月の職員会議でも意見交換をしている。日常的にも、職員からの声掛けや気付きがあれば管理者からも声掛けしている。職員の意見で車椅子をリクライニング式にしたり、利用者の状態に応じて食事形態を変更している	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の定期昇給や有休取得を管理者は推進し実績に結び付けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスを含め研修を充実させ職員の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市北区グループホーム連絡会において管理者同士の交流は活発であるが、職員レベルでの交流は少ないのが現状である		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定期的に管理者、ケアマネジャー、入居者様担当職員とでサービス担当者会議を開催し入居者様の要望等に対応できる体制を構築している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が定期的に家族様や関係各位様に入居者様の現況を報告している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療連携サービス等を充実させるため家族様や関係各位様と緊密に連携を取り適切で迅速なサービスが提供できる体制構築をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ティータイム時や食事時等の場面では入居者様と職員とが同じ時間を共有し楽しいひと時を過ごすようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様や関係各位様の来訪時は管理者やケアマネジャーだけでなく職員も積極的に関わりを持てる場面を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や関係各位様との外出を積極的に後押しし実行していただいている	早くから面会を再開し、家族と一緒に外出・買い物・帰宅をする利用者もいる。コロナ感染状況を見ながら「ふれあい喫茶」への外出も増やして行く予定である。友人・知人から手紙や葉書が定期的に来る人もあり、返信などを支援している。家族から事業所に電話があり、取り次ぎして利用者と話をしてもらっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ティータイム時やレクリエーション時には入居者様同士に職員も入りトライアングルコミュニケーションを積極的に取っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居された入居者様の関係者とも連絡を取り合い現状の情報共有を実施している		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、ケアマネジャーは入居者様とのコミュニケーションを密に取り意向の確認をしている	担当職員が中心となって利用者の意見を聴き、ケアマネジャー・看護師と相談し管理者に報告する体制がスムーズに機能している。希望や思いがうまく表現できない利用者は、毎日のバイタルチェック時・ケア時・食事の見守り時などに表情・状態を十分に観察し、職員間で情報を共有し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様と今までの生活歴等を管理者、ケアマネジャー、職員が会話の中から汲み取りサービス提供の情報源としている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的な外気浴や体操、レクリエーションを通じ有意義な時間を提供すると共にボランティアを活用し非日常の体験ができるように積極的に実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や職員会議で各入居者様についてのカンファレンスを定期的実施しサービス提供に紐づけしている	介護計画は長期目標6か月・短期目標3か月とし、サービス担当者会議を定期と状況変化時の都度開催している。事前に本人にヒヤリングし、家族の意見・要望は面会時や電話で聴き、医師・看護師の意見も聴いて取り入れている。意思表示が困難な利用者は担当職員を中心に話し合っ家族に相談・報告を行い、介護計画書を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の状態に関しては紙媒体の日誌と電子端末での記録とで常に全職員が情報共有できるシステム作り及び実行している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者様の日々の状態を全職員が把握し医療を含めたあらゆるサービス提供が出来るように職員間の情報共有をしっかりと図り実行できる取り組みをしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	祭やイベント等地域で実施されている行事には積極的に入居者様に参加していただき地域交流を促進してる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	訪問診療専門の医療機関としっかりと医療連携を取り家族様や関係各位様とも関係構築を図り適切な医療を受けられるような体制構築をしている	利用者・家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、内科は全員が月2回、歯科・歯科衛生士は希望者が週1回の訪問診療を受けている。主治医の同意を得て訪問マッサージを受けている人もいる。整形外科の受診には職員が同行し、歯科・眼科は、訪問医の紹介状を持参して家族が同行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が週3回出勤し主治医と管理者、ケアマネジャー、職員との連携を取り持ち切れ目ない医療提供をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された入居者様の家族様や関係各位様とは主治医、管理者、ケアマネジャー、看護師と入院先医療機関との連携を図り1日も早く退院しお戻りいただけるよう計画を実行している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様がお看取りの状況になった場合は速やかにカンファレンスを実施し入居者様にとって安楽で安心できる施設生活ができるように支援している	重度化した場合と看取りに関する指針を重要事項説明書に添付して説明し同意を得ている。重度化した時は、医師が家族に対応法を説明して意見を聞き、看取りを見越して同意書を得て、看護師の指示などを朝礼で職員に周知している。看取り状態になった利用者に、可能な限りのケアを尽くして約1年無事延命している人が、現在2名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送を含めた緊急時の対応は全職員が同じ行動と対応ができるように訓練できている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ハザードマップ等の内容を全職員がしっかり把握し有事の際に落ち着いて行動できるよう対策を講じている	昼間・夜間の火災を想定した自主避難訓練を年2回実施している。建物1階に居住する職員2名と医院関係者や、近くに住む職員数名と地主が直ぐに駆け付けられるのは心強い。水・食料など3日分を備蓄している。「自然災害発生時における事業継続計画」を策定済みである。	今後は、できるだけ多くの利用者が参加して、消防署立会いの避難訓練や地震・風水害を想定した訓練を実施すること、災害時の近隣住民の協力体制を構築することなど、災害対策を更に強化することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全入居者様に対し「人生の大先輩」であることを肝に銘じ対応に留意するよう管理者が訓示して実行している	入職時に、プライバシー保護・個人情報保護の研修を実施している。言葉遣いを「ですます」調にし、「ありがとうございます」「お願いします」を言うことに留意した結果、接遇レベルがかなり向上した。不適切な対応があれば管理者や気付いた職員がその場で注意し、毎月の「担当入居者報告書」を基に職員会議で話し合っはて是正している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	管理者、ケアマネジャー、職員は日常での入居者様との会話を重視し思いを聞いて対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全入居者様の状態を職員は日々把握し本人のペースや思いを最優先とした対応をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケア、入浴時の更衣や身体の保清、髪のお手入れや髭剃り等あらゆる身だしなみに留意し実行している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや後片付け等は積極的に入居者様にさせていただいている	業者の献立・食材を利用して調理専任職員が調理し、ご飯・汁物も作って提供している。月2回程イベント食として、お好み焼き・たこ焼き・焼きそば・寿司・BBQなどを一緒に作り、おはぎ・フルーツパフェ・かき氷などの手作りおやつも楽しんでいる。寿司・うな丼を取り寄せ、月に数回カフェに出掛けていて、弁当を買い出す予定もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回管理栄養士に来ていただき全入居者様の食事、水分摂取状況を分析してもらい助言を受け、全職員が情報共有できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員だけでなく訪問歯科診療を受けていただき口腔衛生管理に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各入居者様に合わせた排泄支援を実行している。その際入居者様のADLを最大限活かした「必要最低限の援助」の意識付けを職員が自覚している	リハビリパンツ・パッド使用の利用者が多く、個々の排泄パターンやサイン(眉間に皺が寄るなど)を把握して適時にトイレに誘導している。製紙会社主催の「排泄用品の使い方」の事業所内研修を実施し職員に周知している。誘導のタイミングや介助時の体位変換に気を付け、女性利用者が尿路感染症にならないよう細目に洗浄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になりにくいように野菜を多めに取り入れた食事の提供や水分を多く含んだおやつ提供に尽力している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各入居者様の入浴時間を多めにとり、介助時の会話をしっかりと取ることを意識付けしている。入浴を楽しんで頂くために温泉の素を活用し肌のお手入れも積極的に取り入れている	週2回午後入浴を基本としているが、利用者は週2~4回入浴し、失禁して毎日のように入る人もいる。嫌がる人は日時や職員を替え、重度の人は2人介助やシャワー浴を行い、要介護5の人は看護師がいる時に清拭をしている。温泉の素を使用したり、会話をして最長1時間程ゆっくり楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後からの昼寝等の休息臥床を積極的に取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者様の現在服薬中の薬情報は全職員が把握できるように冊子にまとめ確認している。薬の変更時は申し送り事項で確認できるよう対処している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の散歩や体操、晩酌等各入居者様の要望にお応えし喜んで頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から自粛していた外出支援を徐々に再開させていく予定である	利用者は週3～4回、事業所周辺や近くの公園まで散歩に出掛け、玄関先のベンチやベランダの椅子で日常的に外気に当たっている。家族と一緒に散歩や帰宅をする人もいる。今後、弁当買い出しやカフェ・スーパー・カラオケボックス・うどん店・大山公園・市役所展望台などに出掛ける機会を徐々に増やす予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から自粛していた買い物同行援助を徐々に再開させていく予定である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からのお手紙、お葉書や電話等は積極的に活用していただくよう家族様や関係各位様に積極的に声掛けをしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは整理整頓をし清潔保持に努め、壁は季節に応じた装飾を施し明るい空間作りを実行している	居間兼食堂には、利用者と共に作品(今は、花火・盆踊り・朝顔・ひまわり・海中魚・月見)や利用者の日常写真を掲示し、季節感・生活感を醸し出している。利用者が異食しないよう清掃して清潔を保ち、整理整頓して歩くスペースを多くし、刃物のある調理場入口にフェンスを設ける、などに留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースに離れの場所を設置しのんびり過ごせる空間確保をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の思い入れがある物を居室内に配置し、写真や絵画などを設置し居心地の良い空間作りを企図している	居室にはベッド・クローゼット・エアコン・カーテンを設置し、換気扇を終日稼働させている。利用者は筆筒・椅子・腰掛・衣装ケース・テレビ・ラジオ・位牌などを自由に持ち込み、居心地良い空間を創っている。安全確保のため、センサー・ベッド横マットレス・ベッド柵緩衝材を設置したり、排泄介助後の消臭用に特殊消臭剤を置いている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様が生活する場として「個人の居場所」の確立を意識した空間作りを実施し、歩行時の安全確保のため手すりを多く設置し安全への配慮を実施している		